

令和7年度第3回みまきっこまんなか応援まちづくり推進検討委員会 会議録（要旨）

開催日時	令和7年8月25日（月） 18時30分～20時30分
開催場所	久御山町役場5階 コンベンションホール
参加者	出席者 11名（2名欠席） オブザーバー 4名（京都女子大学、NPO法人ひと・まち・ジャパンクション） 委託業者（teco(株)） 7名（うち6名はオンライン参加） 事務局 5名（（部長、子育て支援課長他）

1 開会

あいさつ 委員長

2 議事

（1）みまきっこまんなか応援まちづくり事業基本計画について（資料1）：teco(株)説明

ページ	説 明
8-9	地域の固有名が大事にされていると感じたので、最初のページとした。
10-11	スタートダッシュ合宿で、地域の人に歴史的に重要な地域・自然環境について案内してもらった。四季の行事、食事を楽しむ文化など深く根付いており、重要を感じた。
12-13	御牧校区にはバス路線がないので、ヒアリングの中で交通の話がたくさんでてきた。また、外国人の割合の増加についても特徴。
14-15	今後、公会堂も活かして活動することも視野にいれたページとしている。
16-17	比較的地面レベルの低い土地。河川災害が多くかった。今後に伝える情報発信が必要と考える。
18-19	イベント、ヒアリング、ワークショップにより、929の意見を聴取した。
20-21	具体的にどんな人たちに話を聞いたかというページ
22-23	ヒアリング結果と場所を結び合わせ御牧地区の印象地図「みまきマップ」としてまとめている。 比較的声が大きかった意見、特徴的な意見に赤下線を引いている。
24-29	聴取した意見を、過去・現在・未来の順に記載し、昔から継続するもの、最近新たに浮上した意見などを御牧地区の巻物「みまきもの」としてまとめている。
30-31	昔は、遊びの種類がたくさんあり、簡単な道具で、子どもが遊びをつくっていたと感じた。現在、昔遊びを知らない子どもたちもいる。遊びワークショップを実施しても良いのではと思う。
32-37	みまきの遊び・遊び場を特徴づける図鑑。完全に建築まではいかないまでも、地面に近いところで遊ぶことができる＝ビニールハウスなどはたいへん興味深い。 共同の場しつらえ、ビニールハウスで季節によりいろいろな物をカスタマイズしながら使い集まっていて、学ぶところが多い。このようなことをヒントに場づくり

	りができたらよいかなと考える。 農家の方が使っている台車等、遊び道具にもなりそうなものがある。
38-39	前回に説明したコンセプト現時点では暫定。開館までのなかで新しい拠点のコンセプトとしてみえてきたらよいのでは。
42-43	町内の校区外、御牧校区にあるもの、建築の中に求められるものをまとめている
44-45	ヒアリングから抽出した必要機能。
46-47	機能を絵としてまとめた。図の中央が新拠点の建築の中、敷地内部、その外側のまちというふうにゾーン分け。現時点でヒアリング内容を全て詰め込んだ必要機能図となっている。どこまで計画敷地で実施するかは今後の検討課題。
48-49	同事例からの平均的な規模を算出し、これを参考に、本計画の適正規模を算出している。
50-51	タイムシェア事例。複数事例と本計画の利用想定のタイムシェア。
52-53	立地に関して。前回の検討委員会でも示した整備方針と候補地の検討比較表もの。
54-55	土地の特徴について。忠魂碑の南側が今回の計画の敷地で最終決定。 忠魂碑の場所、除草用のシート、既存植栽、碑の老朽化に対して今後対応。
58-61	歩車分離の動線と建物配置の可能性について。 歩車分離と敷地の特徴から、完全な歩車分離を叶えられて、忠魂碑部分も一体的に整備する方針を勧める。建築の配置案としては現時点では3通りの方針を考えている。 ①南からよく見える配置。広場としてはいちばん大きくなる。 ②小学校の駐車場にポール等がいくのを気にする必要がなくなる。 ③静かな庭、思い切り遊べる場所をわかる案

〈意見等〉

teco(株)：項目が多いので、1つわかりやすいフレーズがあったほうがいい、という意見が内部でていた。施設開設までにつくっていけたら。

委員長：キャッチフレーズ的なものは、おいおい考えていけばよい

委員：調整区域なのでこれはできる、できないというのがあるのか。放課後等デイサービスは建設可能なのか？

事務局：現在「子どもの居場所」は、児童福祉法に位置づけられた施設でないので、開発協議はいらないこととなっている。

現在の想定スケジュール通りに進める場合は、正式に、放課後等デイサービスを建設するのは難しいと考える。

委員：開発協議を同時並行でしていけばよいのでは。

事務局：すでに開発なしの前提で協議を進めているのと、町のビジョンで、どうしてもここにないと、というものではないと審査会で認められないので、難しいと考える。

委員長：規模も大きないので、機能をメインの居場所づくりというゆるやかなものにし、なんで

<p>も活動できるようにしておいたほうが良いと感じる。そのようななかで、地域の人たちが様々な境遇の子どもたちを見守りながら、という環境をつくることができればよいかも。</p> <p>teco(株)：すでに運営されている誰かの拠点がベースになっていれば運営しやすいということを考えられる。</p> <p>事務局：開発協議をするとなるとかなり時間がかかるうえに、町としてのビジョンが必要となる。用途がかわると、今進めている協議も最初からになってしまう。</p> <p>委員：貸館業務はできないのか。</p> <p>事務局：調整区域でどこまでできるかは調べないとわからない。部屋が開いている時間に、放課後等デイサービス、不登校児童スペースというのを考えられなくもない。</p> <p>委員長：調整区域で建設、運営が可能のこと、不可能なことの整理を事務局でして、障害をもつこどもや不登校のこどもの居場所を計画に含めるかどうかは今後の検討課題とする。</p>
<p><b>【必要機能について】</b></p> <p>teco(株)：寺子屋・食堂・プレイバス・こども自治会に加えて、ヒアリングで聴取した機能もいろいろいる。新しい拠点で全部やるのではなく、違う場所で、ということもありうると思っている。</p> <p>委員長：ここでいちばんにがしたいか、ということをしぼっていくほうが設計しやすい。</p> <p>事務局：防災拠点の機能は小学校で補えるのではないか。今回の計画建物を、水害に強い建物とすることはできるか。できないのであれば、このページを残しておくことで、反って危険なイメージだけを残してしまうのではないか。</p> <p>teco(株)：こういう土地だと言うことを理解した上で、日頃、なにかが起こったときにはどう動くかということを考えることは大切。建物の規模的に高層な建物とすることは難しいが、少し床レベルをあげて建設することは可能。</p> <p>基本設計時に議論する必要あり。</p> <p>委員：避難所ではないので、水害に強い建物にはしなくてよいのでは。</p> <p>委員：防災拠点としてではなく、昔の体験を知ることも含めて、日頃防災についてみんなで考える場所という位置づけにしては。</p> <p>オブザーバー：7つのコンセプトと新拠点の必要機能の関連性、コンセプトを達成するための必要機能という流れになるのが一般的。「火をおこせる場」という表現が気になった。調理は安全上、IHのほうがよい。そのあたりの考えを聞きたい。</p> <p>teco(株)：この拠点がどうなってほしいか、この拠点を通して御牧がどうなってほしいかというのがコンセプト、必要機能は新拠点での具体的なことのイメージ。</p> <p>「火」に関して、キッチンはIHとしても、「火」をおこせる場所は重要と考えている。</p> <p>「火」のおこし方をこどもたちが教えてもらうという環境があると良いのではないか。また、火をみるとか火が熱いことの体感などは重要と考える。</p> <p>委員長：「火」の危険性を知らず大人になることへの懸念はある。花火、キャンプファイアの等</p>

を想定するとすれば、「火を体験する」というような表現の方が適正では。

【配置計画について】

委員：できるだけ広場をとること。東西が長いほうが西日があたらない。できるだけ駐車場側に寄せ、周りに田んぼ等があるので木はいらないかもしれない。広場への土入れを考慮し、ダンプの通り道は確保。

委員長：歩車分離したほうがよいので、敷地外に駐車場所を確保することが望ましい。

委員：御牧のこどもたちを応援する拠点をつくりたいと考えている。御牧小の運動場、自分の家にはないが、新拠点ではできる、というような場所に新拠点をすべき。いろんな要素をつめこむのもよいが、できあがったときに、こどもたちが喜ぶような建物・内容にする必要がある。それを、みんなで共有したほうがよいのでは。

例えば、地球温暖化であつくなつて外では遊べない、けど、あそこに行ったら遊べるという空間がある、家ではゲーム規制されるけど、あそこにいったら A I みたいなものでゲームができる、家にはピアノがないけどあそこにいたらできるなど。日常的にあそこに行きたいと思える施設にすることが大事。

委員長：大事な視点。929 の意見を受け入れられるような施設にするためにどうするか、という議論を今していると考える。建築の具体的な形がでてくるとわかりやすくなる。そこでまた発展的な議論になっていくと考える。

委員：建物の開放をしているときに御牧小学校の駐車場や建物横の駐車場は使えるのか。

事務局：教育委員会と調整中、プール前 6 台を借りるということで話をしている。

(2) トライアルイベントについて

○7月 31 日 水かけまつり報告（報告書等）

実証内容①みんながやりたいことをやってみたらどれだけ人が集まるか→結果：200 人  
②夏休み中平日開催→結果：就学前のお子さんが少なかった

○9月 13 日 イベント チラシにより説明

目的：夜間・中学校開催で集まる層の確認。

参加者にやってみたいことをしてもらうとどうなるか。

※K B S 京都「あったか京都」という番組の取材が入る。

委員： チームリーダーがいたほうがよい、という前回の反省もいかしていただけたら。

駐車場係等の運営を検討していただきたい。

(3) その他

○M I Z U B E ステーションでの実施事項については、事務局でいったん整理

○次回の会議は、基本設計の途中、R 8 年 1 月の予定。

○みんなの居場所 1 回目 10 月 4 日午前 10 時～正午 のぞきにきてもらえたたら。